

巻頭言

生活と工学 Life and Engineering

小川昭二郎
Shojiro OGAWA

本年 1999 年を以て「生活工学研究会」を発足することとしました。そして、その機関誌として本誌「生活工学研究」を創刊致します。

従来、「科学」は、世界から系を純粹に取り出し、この系をいくつかのパラメータで規定・制御し、解析することにより発展して来ました。そして、その成果が多くの稔りを齎していることは周知であります。

また人間はその生活に当って、すなわち、環境への働きかけにおいて、みづからの生理機能だけに依存せず、生活の技術を開発し発展させてきました。そしてその技術を上述の科学の研究対象としました。「工学」の誕生であります。

工学はその力を大いに発揮し、工業技術を開発・発展させ、さらにその成果が人間の生活にとって不可欠なものになるにつれて、人間の活動規模はますます大きなものになり、ついには先ほどの科学の前提である「世界から系を純粹に取り出す」ということ自体が成立しない状態にまで至ってきました。人間の活動規模が世界自体を大きく変動しうるようになったからであります。系を純粹に制御するために必要な、無限の容量を持つ環境はずでにないのです。工学もこれまでの手法や発想を変えざるを得ない地点に来ています。

人間は環境の中で生活している生物です。生活とは人間と環境の相互作用そのものであり、人間・環境の双方とも、当初より、系として純粹に抽出して制御できる様な対象ではありません。ここに科学が最も手を着けにくかった理由があります。

生活は解明さるべき対象ですが、それと同時に、日々ダイナミックに変動・制御していく対象でもあります。すなわち工学の対象であります。我々自身が入っているのです。ここに我々が新たに「生活工学」を主張する根拠があります。

今こそ工学は生活を対象とすべきです。従来のままの工学を放置してはなりません。

以上、「生活工学研究会」を発足する所以であります。

(生活工学研究会会長)